

SHARP

Be Original.

環境取り組みのご紹介

シャープディスプレイテクノロジー株式会社
亀山事業所



2024年版

亀山事業所 環境取り組みのご紹介

目 次

目次・編集方針	・・・P.1
事業紹介	・・・P.2
環境管理経営責任者のご挨拶	・・・P.3
事業所の環境方針	・・・P.4
環境ビジョン	・・・P.5
～SHARP Eco Vision2050～	
事業所の環境活動と 「持続可能な開発目標（SDGs）」	

活動-環境方針に基づいた取り組み

2023年度取り組み内容と結果	・・・P.6
地球温暖化防止の取り組み	・・・P.7
電力使用量削減の施策	・・・P.8
廃棄物排出量削減の取り組み	・・・P.9
廃棄物排出量削減の施策	・・・P.10
化学物質の使用量削減と適正管理	・・・P.11
資源の有効活用(工業用水使用量削減)	・・・P.12
環境配慮型商品の創出	・・・P.13
環境マネジメントシステムの推進	・・・P.15
環境マネジメントシステムの継続的改善	・・・P.16
従業員への教育取り組み	・・・P.17
汚染防止のための緊急時訓練	・・・P.18
生物多様性の保全取り組み	・・・P.19
地域とのコミュニケーション	・・・P.21
環境法規制順守の取り組み	・・・P.23
環境法規制順守データ	・・・P.25

紹介

亀山市長からのメッセージ	・・・P.27
亀山市のご紹介	・・・P.28

資料

事業所マップ	・・・P.29
インプット・アウトプット	・・・P.31
亀山事業所のあゆみ	・・・P.32
省エネ豆知識	・・・P.33
環境用語	・・・P.34

編集方針

発行目的

『環境取り組みのご紹介』は2004年操業開始の年から発行しています。本冊子は、環境に関する詳細情報を地域住民を含め、すべてのステークホルダーの皆さんに提供することを目的に発行しています。

対象範囲

【亀山事業所】

シャープディスプレイテクノロジー株式会社
大陽日酸株式会社
コンパスグループ・ジャパン株式会社

対象期間

2023年4月～2024年3月
(一部過去及び2024年4月以降の活動・情報も掲載)

発行部門

シャープディスプレイテクノロジー株式会社
人事総務統轄部
亀山UTTサービス部
TEL : 0595-84-6132
FAX : 0595-84-1729

発行

2024年12月

取り組み実績の根拠

CO₂換算係数

- 電気 : 0.410 (t-CO₂/MWh)
- 都市ガス : 2.080 (t-CO₂/km³)
- 蒸気 : 0.035 (t-CO₂/t)
- 空調冷水 : 0.018 (t-CO₂/GJ)

シャープディスプレイテクノロジー株式会社は、シャープ株式会社のディスプレイデバイス事業の分社化により、2020年10月1日付けて事業を開始しました。スマートフォン、タブレット、パソコン、車載機器、大型テレビ等、小型から大型まで様々な用途の最先端ディスプレイを開発・生産・販売しており、グローバルユーザーの様々な需要にお応えしています。

今後も新しい分野に挑戦し続け、更なる事業拡大を図っていきます。

亀山事業所の概要

会 社 名：シャープディスプレイテクノロジー株式会社 亀山事業所

所 在 地：三重県亀山市白木町幸川464番

代 表 者：代表取締役 社長 川合 勝博

従業員：1,930名（2024年4月1日現在）

操業開始：2004年1月（第1工場）

生産品目：ディスプレイデバイス



亀山事業所



スマートフォンの画面



車載用パネル



ノートパソコンの画面



環境管理経営責任者のご挨拶

日頃より、シャープディスプレイテクノロジー株式会社 亀山事業所の事業活動に対し、地域の皆様のご理解とご支援を賜り厚く御礼を申し上げます。

シャープグループでは、「事業や技術のイノベーションを通じた社会課題の解決」と「サステナブルな事業活動による社会・環境に対する負荷軽減」を両輪とした ESG(環境・社会・ガバナンス)に重点を置いた経営の推進により、SDGs達成への貢献を目指しており、2019年に長期環境ビジョン「SHARP Eco Vision 2050 (P.5ご参照)」を策定し、「気候変動」「資源循環」「安全・安心」の3つの分野で2050年までの長期目標を設定し、持続可能な地球環境の実現を目指し取り組みを進めています。

シャープディスプレイテクノロジー株式会社では、様々な用途に向けたディスプレイデバイスの開発・製造・販売を行なっており、世の中のニーズに適合させた技術を常に進化させ、ディスプレイに新たな価値を付加することで、全ての人が安心・安全に暮らせる豊かな社会を目指すと共に、SDGsの目標達成に向け、様々な分野でビジネスの展開を積極的に取り組んでいます。

亀山事業所は、液晶パネルの生産から液晶テレビの完成品組み立てまでを一貫して行なう世界初の工場として稼働し、今年で20年目を迎えることができました。これからも世の中のニーズに適合したディスプレイ製品を創出することで社会に貢献して参ります。

本冊子は、2023年度に実施した環境取り組みを分かり易く皆様にご紹介するために作成いたしました。今後も地域の皆様から信頼され、評価していただけるよう事業活動を進めてまいりますので、ご理解を賜ると共に、率直なご意見、ご感想をお聞かせいただければ幸いです。

引き続き、変わらぬご支援のほどよろしくお願ひ申し上げます。

シャープディスプレイテクノロジー株式会社
取締役 副社長
環境管理経営責任者 長 貴





事業所の環境方針

環境管理責任者からのご挨拶

亀山事業所の環境方針の下、温室効果ガスの排出量抑制や水のリサイクル、廃棄物の発生抑制を推進し、今まで環境に配慮した事業活動に努めてまいりました。

私たちはこれからもその考えを大切にし、より環境社会に貢献すべく様々な活動に取り組むと共に、地域の方との交流を深めてまいります。



【環境管理責任者】
亀山UTTサービス部
部長 田井中 幸作

事業所の環境方針

ディスプレイデバイスの開発・生産拠点として社会に貢献する事業活動にあたり、シャープの環境基本理念『誠意と創意をもって「人と地球にやさしい企業」に徹する』に基づき、環境関連法規制・地域との環境保全協定及びお取引先を含むその他関係者との約束事項を遵守すると共に、環境汚染の予防に努め、以下の取り組みを積極的に推進し、シャープ長期環境ビジョン「SHARP Eco Vision 2050*」の実現を目指します。

◆ 汚染予防の推進に向けた事業活動の展開

- ・地球温暖化防止のための温室効果ガスの排出抑制
- ・産業廃棄物及び一般廃棄物の発生抑制と再資源化、有価物化の推進
- ・薬液及びガスの使用・排出・移動量管理の徹底と有害化学物質の適正管理
- ・製造工程で使用する工業用水のリサイクルによる資源の有効活用と排水管理の徹底

◆ 環境に配慮した商品の創出

- ・消費電力（使用時・待機時）が少ない省エネルギー商品の開発
- ・省資源とリサイクルに配慮した商品の開発
- ・人体や地球に悪影響を与える可能性のある物質を含まないグリーン材料の採用

◆ 環境マネジメントシステムの推進

- ・事業環境における『環境マネジメントシステム』の継続的改善を進め、その機能をより充実させ、環境コンプライアンスを確実にすると共に、環境パフォーマンスを向上させるための継続的な改善を推進する。

◆ 従業員全員への環境方針の周知徹底と社外への情報開示

- ・環境方針は、工場内への掲示と方針書の配布により全従業員への周知徹底を図り、絶えず認識を新たにして取り組むと共に、社外の利害関係者への開示も行なう。

◆ 環境保護及び地域とのコミュニケーションの推進

- ・生物多様性及び生態系の保護や地域貢献活動を積極的に推進し、グリーンマインドの醸成を図ると共に、地域とのコミュニケーションに努める。

環境方針を実現するために、環境目的／環境目標を定め、定期的に見直しすると共に、環境マネジメントシステムの適切な運用と継続的な改善を行い、全員参加で環境保全活動を推進します。

*SHARP Eco Vision 2050

シャープが2050年に向け、世界中に「クリーンなエネルギー」を提供するとともに、企業活動で発生する温室効果ガスや廃棄物などによる「地球への環境負荷」の最小化を図ることで「持続可能な地球環境」の実現に挑戦するもの。



事業所の環境活動と「持続可能な開発目標(SDGs)」

事業活動を通してシャープ長期環境ビジョンの実現と、SDGsの達成に向け取り組んでいます。

環境ビジョン～SHARP Eco Vision 2050～

シャープは、1992年に定めた環境基本理念「誠意と創意をもって『人と地球にやさしい企業』に徹する」のもと、2019年に長期環境ビジョン「SHARP Eco Vision 2050」を策定しました。「気候変動」「資源循環」「安全・安心」の3つの分野で2050年の長期目標を設定し、持続可能な地球環境の実現を目指します。

●長期環境目標

◎ 気候変動

電気を使う製品を作る会社だからこそ、電気の使用で生じる環境負荷に責任を持たなければならない。

目標

- サプライチェーン全体で消費するエネルギーを上回るクリーンエネルギーを創出
- 自社活動のCO₂排出量をネットゼロへ

◎ 資源循環

限りある資源の中で、全てのステークホルダーに多様な価値をいつまでも提供できるように。

目標

- 製品への新規採掘資源※の使用をゼロへ
- 自社活動による廃棄物の最終処分をゼロへ

◎ 安全・安心

シャープの企業活動が、人の健康や地球環境・生態系に悪影響を及ぼすことがあってはならない。

目標

- 化学物質の適正管理で人の健康や地球環境・生態系を守る

※ リサイクルをするにあたり環境配慮面で合理性のないものを除く。

環境活動と持続可能な開発目標 (SDGs)

環境方針による活動と関連するSDGsの17の目標を明確にしました。

「環境方針に基づいた取り組み」の各ページに関連するSDGsのアイコンを表示していますので、取り組み内容と併せてご覧ください。

環境方針	関連する目標
◆汚染予防の推進に向けた事業活動の展開	      
◆環境に配慮した商品の創出	   
◆環境マネジメントシステムの推進	 
◆従業員全員への環境方針の周知徹底と社外への情報開示	  
◆環境保護及び地域とのコミュニケーションの推進	     



2023年度取り組み内容と結果

環境方針の重点行動指針の項目毎に、具体的な数値目標を定め取り組んでいます。
2023年度は、目標を全て達成することができました。

2024年度についても、引き続き環境目標を定め達成できるよう取り組んでいきます。
尚、各項目の詳細については、取り組みページを参照下さい。

	環境目標	実績	評価	詳細頁
①	<u>地球温暖化防止</u> CO ₂ 排出量削減 3,708t以上	 5,438t		7、8
②	<u>廃棄物排出量の削減</u> 廃棄物削減量 1,326t以上	 1,326t		9、10
③	<u>化学物質の使用量削減と適正管理</u> 化学物質使用量原単位削減 3.90kg/m ³ 以下 ガラス1m ³ 当たりのPRTR・VOC使用量削減	 3.80kg/m³		11
④	<u>資源の有効活用</u> 水使用量削減 395m ³ /月以上	 395m³/月		12
⑤	<u>環境配慮型商品の創出</u> 環境法規制順守 新規量産機種評価実施率：100%	 100%		13、14
⑥	<u>環境マインドの醸成</u> 環境情報開示（ホームページ掲載） 65件以上	 76件		15~26
	社会貢献活動（地域環境活動など） 28件以上	 37件		



地球温暖化防止の取り組み



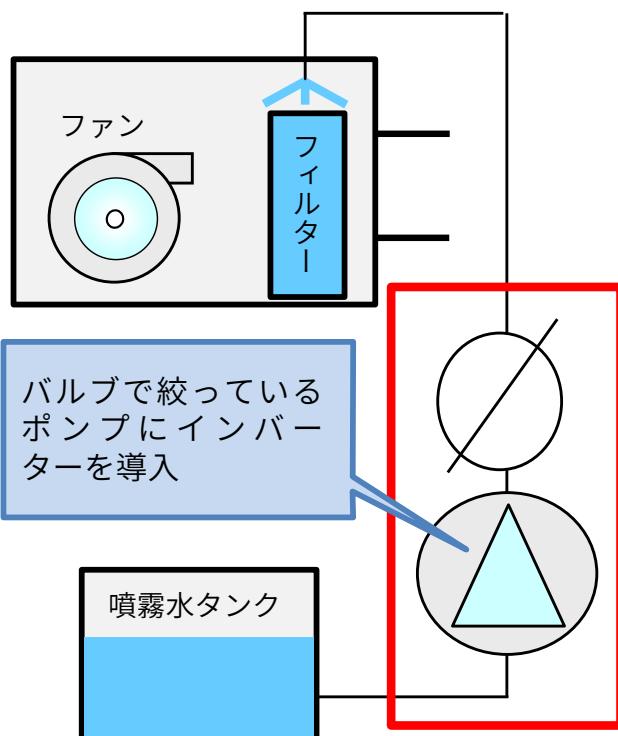
シャープ環境ビジョン「SHARP Eco Vision 2050」の実現に向け、「気候変動」「資源循環」「安全・安心」の分野それぞれに対し、長期的なゴールを定めることで、「消費するエネルギーを上回るクリーンエネルギーの創出」および「企業活動で生じる地球への環境負荷の最小化」に取り組んでいます。

2023年度の目標	2023年度の実績	評価
CO ₂ 排出量削減 3,708 t以上	CO ₂ 排出量削減 5,438 t	達成

排気ファンやポンプのインバーター化

当事業所では液晶パネルを作るためにたくさんのファンやポンプを使用しています。ファンの風量やポンプの水量を調節するためにダンパーやバルブを絞って調節しているところがありました。ダンパーやバルブで流量の調整を行うと大きなエネルギー損失が起こってしまい、無駄にエネルギーが消費されてしまいます。

そこで、ダンパーやバルブを絞っているところのファンやポンプに対してインバーターを導入し、電気的に流量調整を行うことでエネルギーの損失を無くすことができました。このようなところが3箇所あり、合計50kW・185.9tのCO₂を削減することができました。



ケミカル除去空調機（左）とインバーターを導入したポンプ（右）

ケミカル除去空調機概略図



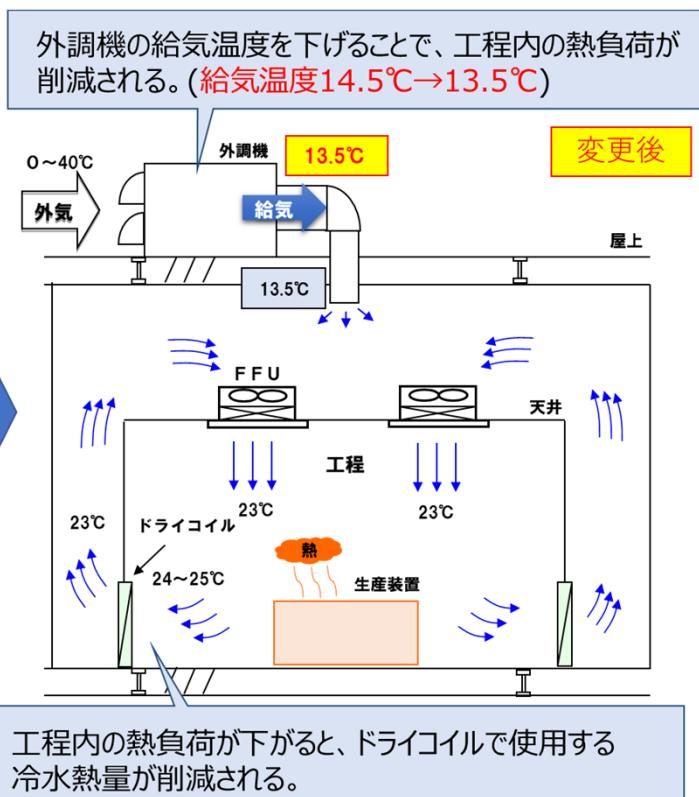
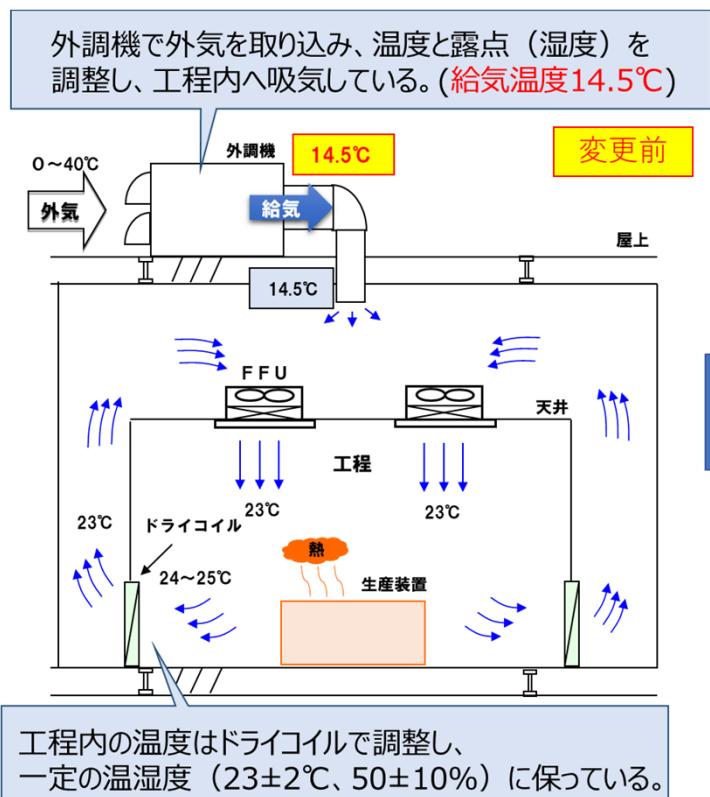
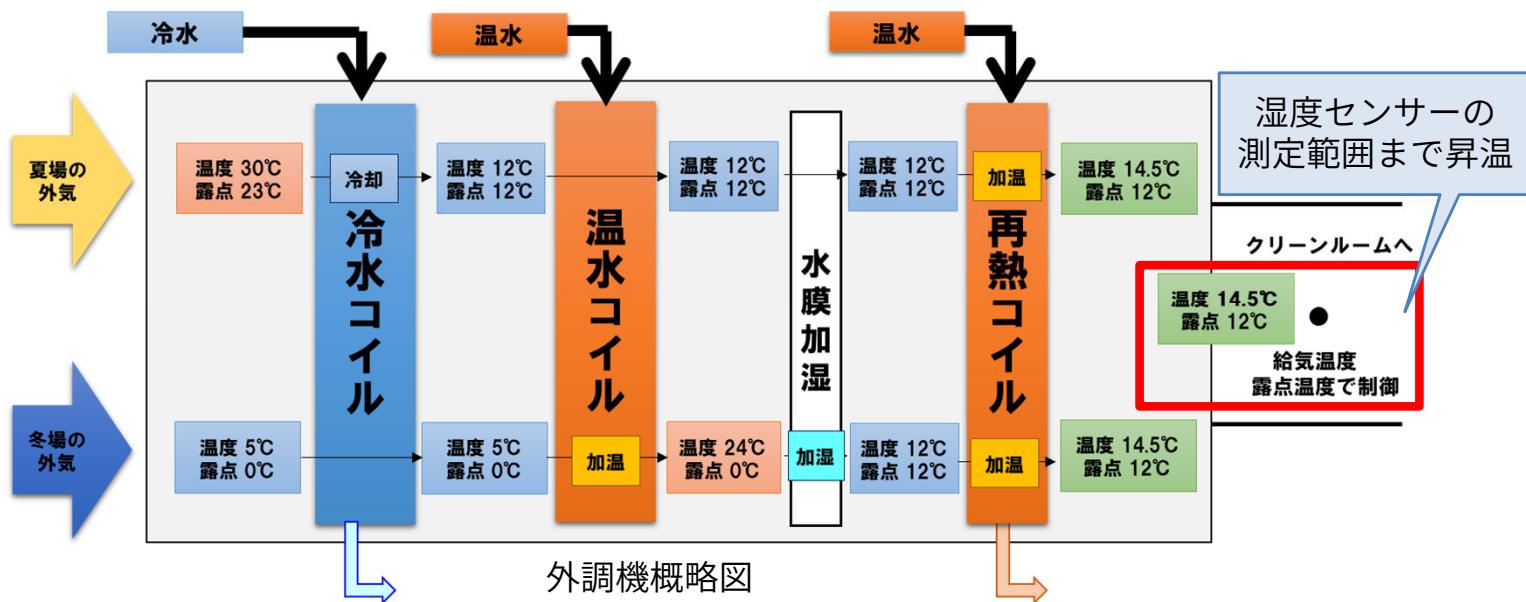
電力使用量削減の施策



外調機の給気温度の見直し

クリーンルーム内の温湿度を一定に保つため、外気を外調機で処理し、温度や湿度を調整して工場内に給気しています。湿度を調整するためのセンサーは湿度が高いとうまく計測ができないため、湿度を制御するためには給気温度を上げて湿度を下げる必要がありました。

しかし今回、湿度センサーの精度が良いものに交換したため、給気温度を下げることができ、クリーンルーム内の熱負荷を削減することができました。これにより、年間16.3tのCO₂を削減することができました。



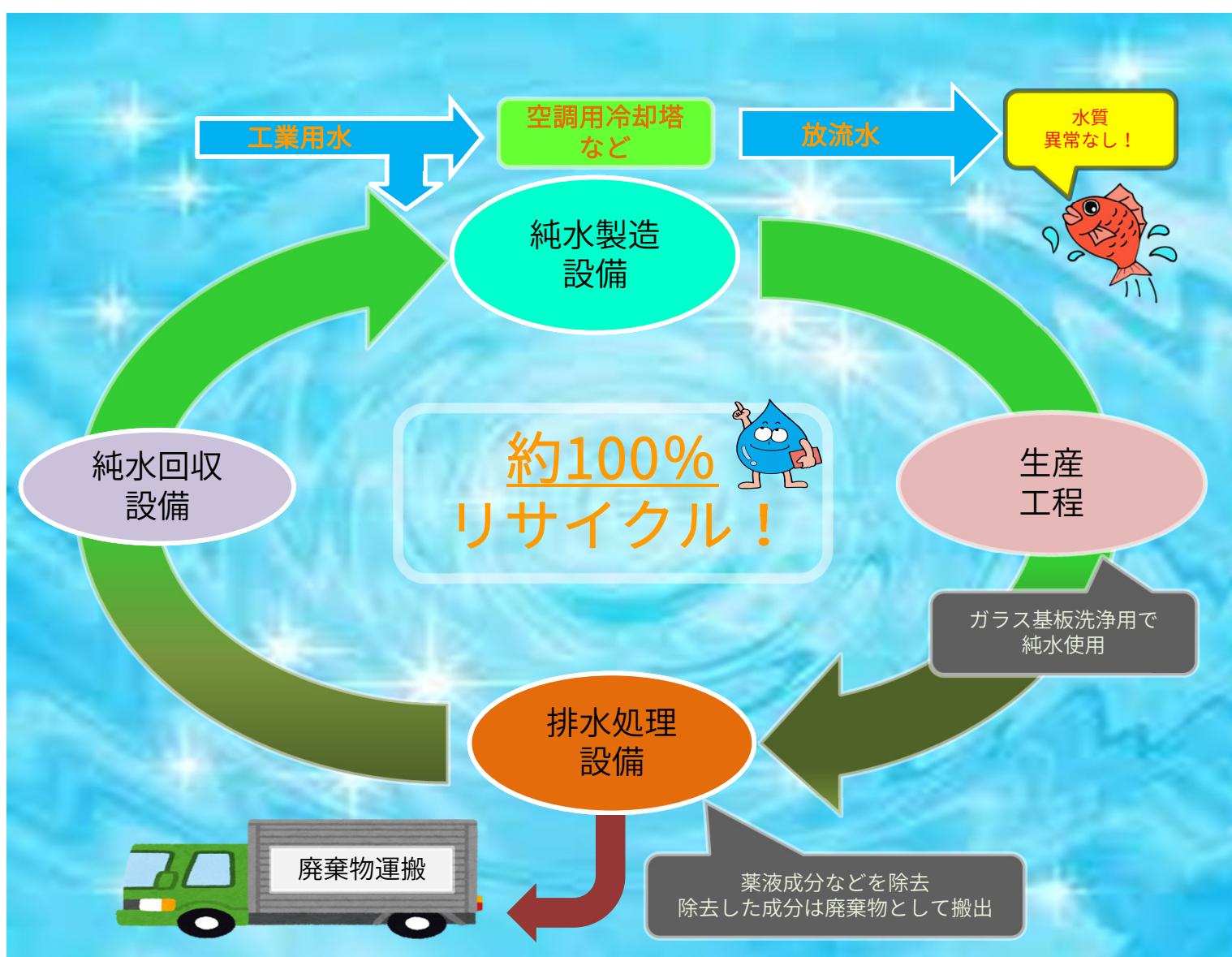


廃棄物排出量削減の取り組み

廃棄物排出量が年間1,000トンを超える「多量排出事業者」に該当しており、生産エリアまで踏み込んだ施策の実施や、廃棄物の有効活用の提案による有価物化によって廃棄物排出削減を行っております。2024年度に於いても更なる廃棄物の削減と有価物化率UPを目指し、取り組んでいきます。

2023年度の目標	2023年度の実績	評価
廃棄物排出量減 1,326 t以上	廃棄物排出量削減 1,326 t	達成

亀山事業所の純排水処理システム



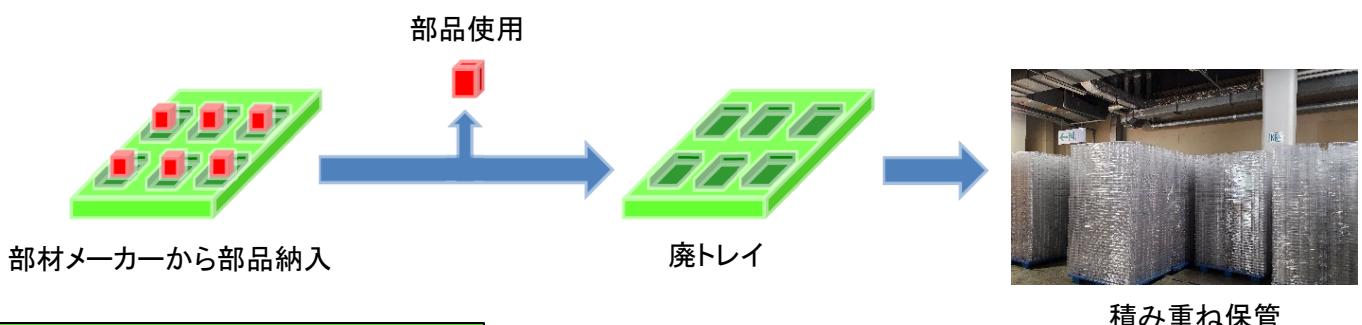


廃棄物排出量削減の施策

廃トレイのリサイクルによる廃棄物削減

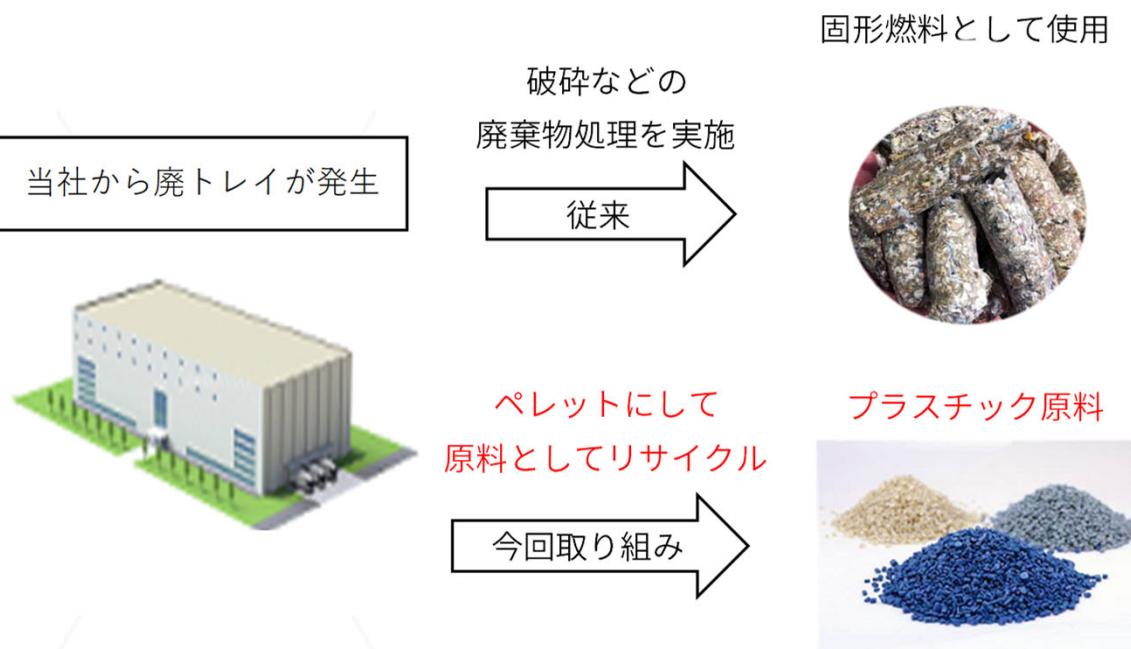
1. 廃トレイとは

液晶パネルに必要な電子部品を購入/納品の際、電子部品の梱包パッケージに使われているトレイ状のプラスチック廃材です。



2. 廃棄物削減の取り組み

廃トレイは従来、破碎後に固形燃料として加工され、使い捨てのサーマルリサイクルでしたが、今回の施策によりプラスチック製品の素に戻るマテリアルリサイクルが可能となりました。



3. 廃棄物削減効果

廃トレイ（廃棄物）をリサイクルすることで135t/年の削減を達成しました。



化学物質の使用量削減と適正管理

生産工程で使用する化学物質の適正管理を徹底しています。新規の化学物質や取り扱う設備の導入時に独自のプロセスアセスメント制度により、厳密な事前審査を実施することで、環境負荷の低減と安全の確保、健康への配慮を行っています。

2023年度の目標	2023年度の実績	評価
化学物質使用量 原単位削減 3.90kg/m ² 以下	化学物質使用量 原単位削減 3.80kg/m ²	達成

部会による安全対策と使用の抑制を促進

化学物質を取り扱う部門が「薬液部会」「ガス部会」を組織し、毎月部会での審議及び安全パトロールを実施しています。また、その結果を事業所の安全衛生健康委員会にて報告し、情報共有を行っています。

●部会の審議内容

- ・新たな化学物質の導入時や化学物質取り扱い、設備増設時の安全性審査
- ・現在使用している化学物質や使用設備の安全対策
- ・万一事故が発生した場合の、検証及び再発防止の審議 など



安全パトロール

●安全パトロールの実施

- ・緊急避難経路の確保及び現場の整理整頓の確認
- ・簡易SDS掲示の確認 など

P R T R制度（化学物質排出移動量届出制度）への対応

化学物質がどれだけ環境（大気、河川、土壤）へ排出されたか、あるいはどれだけ事業所外に運び出されたかを事業所毎に把握して国へ報告するもので、データは一般に公開されます。亀山事業所の対象物質は12物質です。

（指定物質のうち、取り扱い量が1,000Kgを超える物質が報告の対象となります）

単位：kg

化学物質名	排出量			2023 年度	
	2023年度の内訳				
	大気へ	河川へ	土壤 埋立処分		
2-アミノエタノール	31	0	0	0	
インジウム	0	0	0	2,200	
銅水溶性塩	0	0	0	12,000	
フッ化水素及びその水溶性塩	530	0	0	230,000	
ホウ素化合物	31	0	0	2,500	
メチルナフタレン	38	0	0	0	
モリブデン	0	0	0	1,600	
エチレングリコールモノブチルエーテル	700	0	0	0	
ジエチレングリコールモノブチルエーテル	1,500	0	0	0	
テトラメチルアンモニウム=ヒロキシド	260	0	0	240,000	
N-メチル-2-ピロリドン	1,800	0	0	0	
ジエチレングリコールモノメチルエーテル	710	0	0	0	



資源の有効活用（工業用水使用量削減）

使用される水の内、生産に直接使用されるものは、ガラスパネルの洗浄用が大半を占めています。使用された水は、100%リサイクルされているため、事業所内で生産棟と水処理棟を循環しています。これら設備の安定運転のため、日々、維持管理に取り組んでいます。

2023年度の目標	2023年度の実績	評価
水使用量削減 395m ³ / 月以上	水使用量削減 395m ³ / 月	達成

冷却塔のブロー率変更による補給水の削減

当事業所には複数の冷却塔があり、冷凍機が取ってきた熱を冷却塔で冷却しています。冷却塔内では水と空気を触れさせ、水が蒸発するときに周りから熱を奪う性質を利用していいるため、水の量が減って中の水の汚れはどんどん濃くなっています。

汚れが濃くなってくると藻や細菌が発生したり設備が腐食してしまうため、水を補給する必要があります。水の汚れは電気伝導率を測定することで管理することができ、汚れたときだけ水を補給して水が汚れるのを防いでいます。

補給する水は工業用水を使用していますので、多くの工業用水を使用しています。そこで今回、補給水が入る電気伝導率の設定値を見直し、工業用水の使用量の削減を図りました。設定を変更した結果、年間2,250m³の工業用水を削減することができました。



冷却塔①



冷却塔②



環境配慮型商品の創出



環境に配慮した製品を開発するために、シャープグループでは7つのコンセプトに基づく開発・設計指針をまとめた『グリーンプロダクトガイドライン』を定めています。製造している液晶ディスプレイの開発・設計についても『グリーンプロダクトガイドライン』に従って運用を進めています。

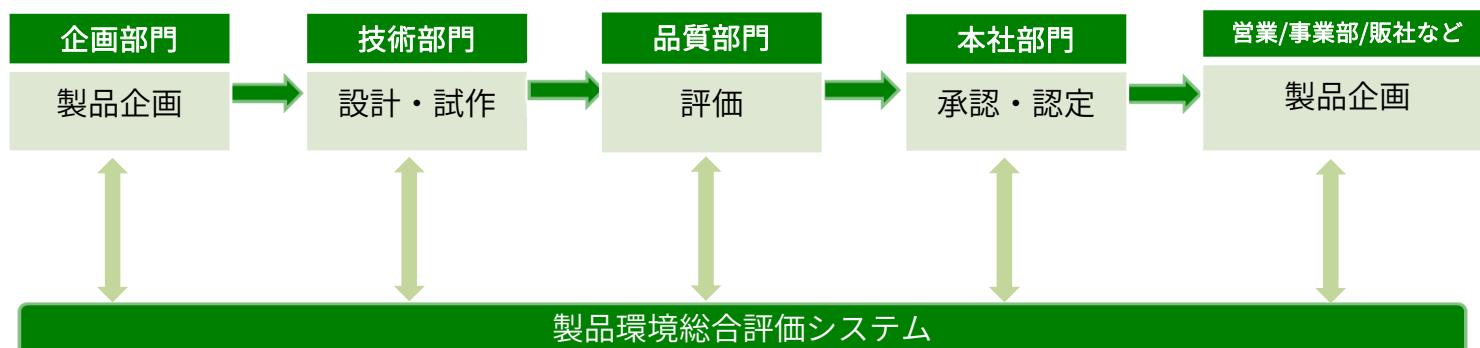
2023年度の目標	2023年度の実績	評価
グリーンデバイスの創出 (環境法規制の順守) 100%	グリーンデバイスの創出 (環境法規制の順守) 100%	達成

グリーンプロダクトの7つのコンセプト

省エネ・創エネ	エネルギー効率が良く、エネルギー使用の少ないデバイス 消費電力(量)、待機時消費電力の削減など	長寿命化	製品の長寿命化に配慮したデバイス 部品・消耗品を交換することにより寿命の延長が可能など(対象:液晶デバイス)
省資源	省資源化を考慮したデバイス 質量、容積の削減など	包装	包装の環境配慮性を高めたデバイス 包装材料の削減など
リサイクル配慮	リサイクルに配慮したデバイス 標準化されたプラスチックの使用、分離、分解しやすい構造設計など	情報開示	環境情報の開示が可能なデバイス 含有化学物質の情報開示が可能などラベルの取得、LCAの実績など
安全使用・処理	安全に使用・処理できるデバイス 部品・材料含有化学物質管理の実施など		

製品環境総合評価システムの運用

環境法規制の順守と環境配慮設計の促進を目的として「製品環境総合評価システム」を運用しています。設計・開発の全拠点における環境配慮型製品・デバイスの開発ノウハウや設計データをデータベース化し、設計水準を向上させるとともにライフサイクルアセスメントの社内基準化を図るなど、環境配慮型・デバイスの創出に活用しています。



■ 製品環境教育会の実施

毎年、製品関連業務従事者を中心に教育会を開催しています。製品含有化学物質の最終確認/不使用証明書の発行等を行っているCS推進部が講師となり、製品環境法規制や環境情報の動向、環境調査などについて教育し、コンプライアンスの強化を図っています。

S D T C) 製品環境教育会

2023年8月8日 (TeleOffice開催)

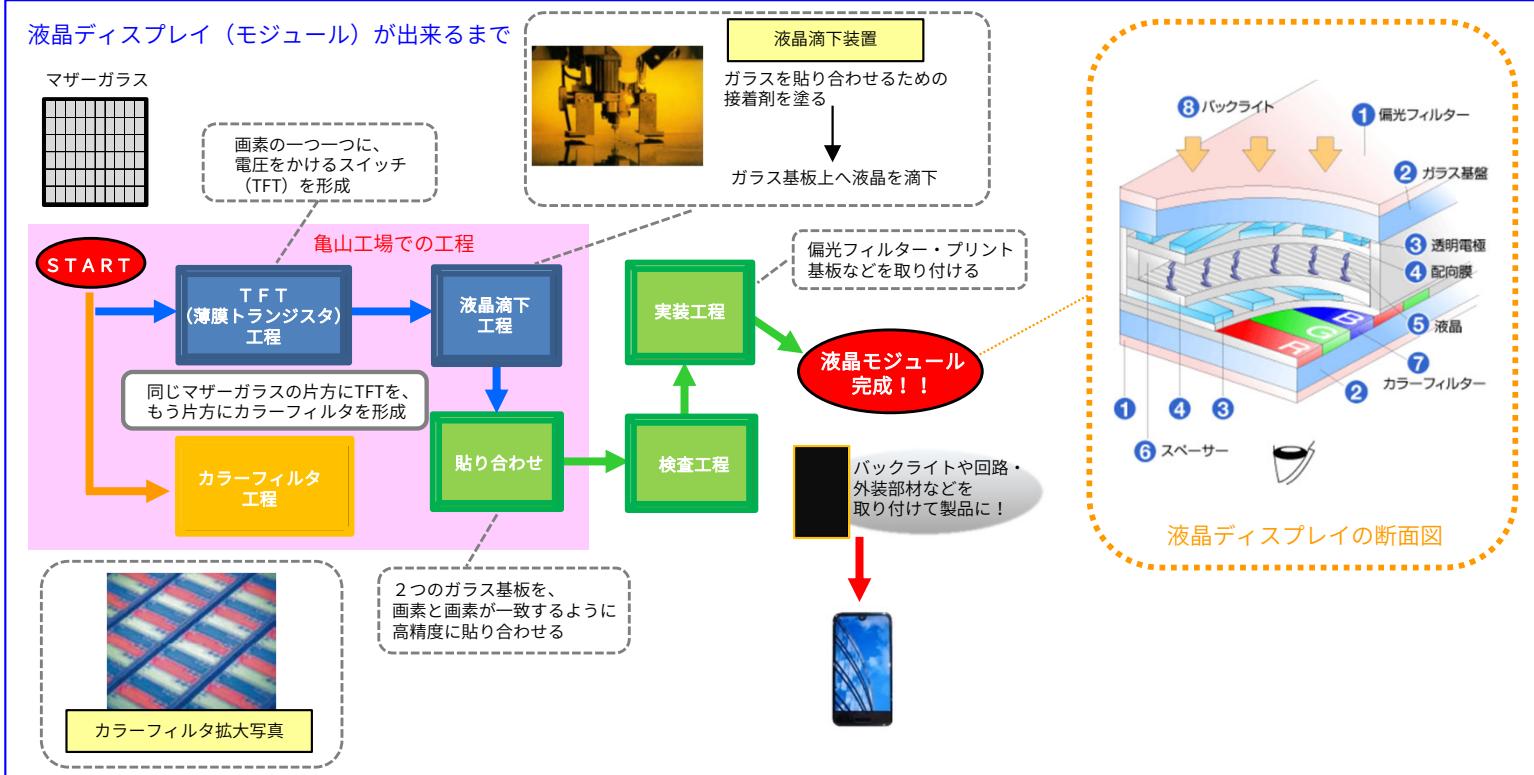
品質統轄部／C S推進部



実施日：2023年8月8日
受講者数： 66名

液晶ディスプレイの仕組み

液晶ディスプレイは、液晶やガラスなどがサンドイッチのように層状になっています。



IGZO（イグゾー）技術の紹介

IGZOは、2012年3月に当社が世界で初めて量産化に成功した、酸化物半導体です。

■ IGZOの用途



画素の中の液晶に電圧をかけるための
“スイッチ”的役割をするのが

「薄膜トランジスタ(TFT)」
(Thin Film Transistor)



4つの元素を組み合わせることで、今まで出来なかったことを可能にする、革新的なテクノロジーです。

*IGZO液晶ディスプレイは、(株)半導体エネルギー研究所との共同開発により量産化したものです。

これまでその材料としてアモルファスシリコン(a-Si)や低温ポリシリコン(LTPS)が使われてきましたが、

IGZOをTFTの材料とすることで
ディスプレイの性能が飛躍的に
向上しました。

■ IGZOの特長

- 1 高精細
- 2 高速駆動
- 3 低消費電力
- 4 デザイン性

優れた自由な形状などの特長を兼ね備えており、スマートフォンやタブレット、パソコンなど、私たちの身近な製品から業務用途まで、様々な場面で活躍しています。



- 環境方針に基づいた取り組み -

環境マネジメントシステムの推進



2004年にISO14001第三者認証を取得し、19年間認証を継続しています。
ISO14001の概念であるPlan（計画）→Do（実施）→Check（評価）→Act（改善）のサイクルを活用し、環境負荷の継続的改善に取り組むと共に、環境パフォーマンスの向上を図り、環境マネジメントシステムを推進しています。

ISO14001：2015

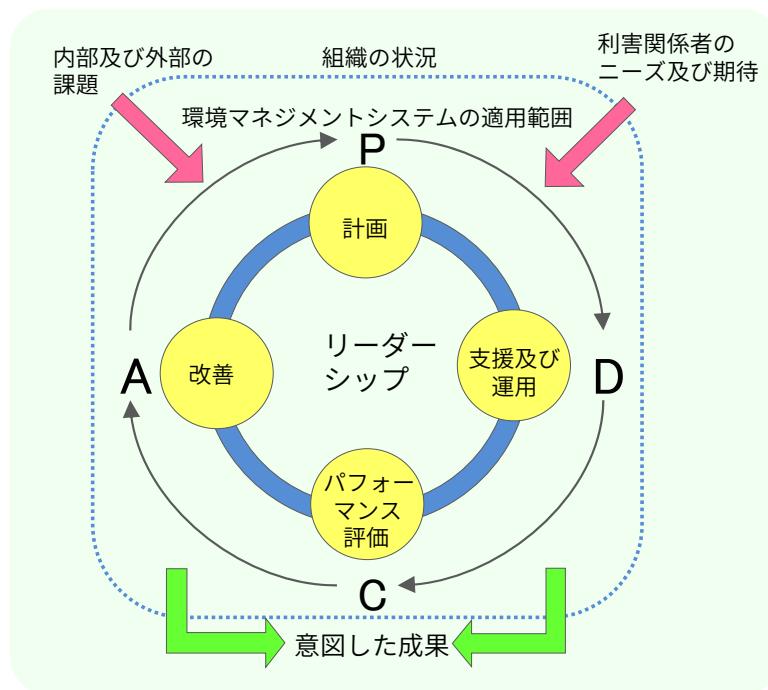


図.PDCAと規格の枠組みとの関係

ISO14001：2015登録証

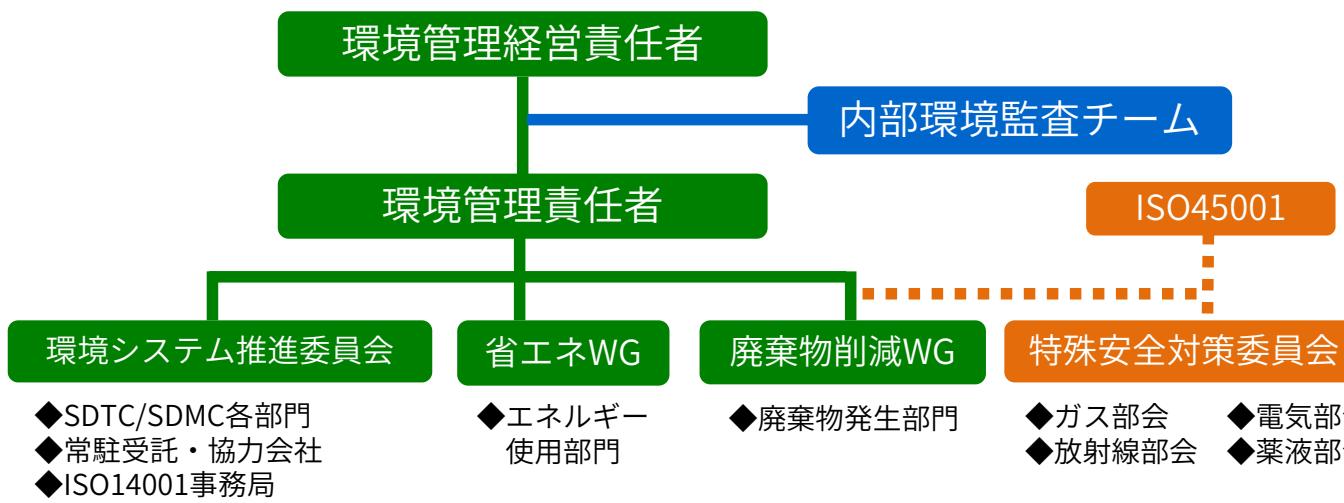


登録日 : 2004年10月12日

有効期限 : 2025年10月11日

環境マネジメント組織体制

環境管理経営責任者をトップに、環境マネジメント組織を構築し、事業所内に常駐する協力会社も含めた環境保全活動を推進しています。
各部門に環境システム推進委員会をおき、定期的に環境システム推進委員会を開催し、環境対策についての審議と各部門の環境取り組みの進捗状況等を確認しています。



内部環境監査

内部環境監査を実施して、環境マネジメントシステムが適切に運用されているか確認します。また、被監査部門と監査員による意見交換で更なる向上を図っています。

◎監査実施日：2023年7月24日～8月31日

実施時期	部門数	結果
2023年度	34部門 (昨年度35部門)	指摘・観察事項2件 (昨年度12件)

【規格要求事項別 指摘・観察件数】

規格要事項	観察要件
7.4 コミュニケーション	1
7.5 文書化した情報	1
指摘・観察件数 合計	2

認証機関による審査

2023年度は、マネジメントシステムの適合性・有効性とパフォーマンスの継続的改善を確認する1年次定期サーベイランス審査を受審し「認証維持」の判定をいただきました。3件の改善の余地につきましては、改善に向けて取り組みます。

◎審査実施日：2023年9月12日～14日

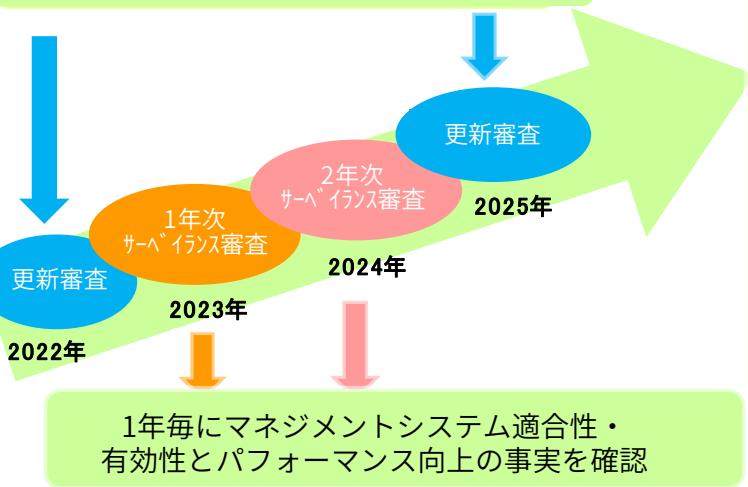
◎審査機関：株式会社日本環境認証機構

◎審査部門数：17部門（事務局含む）

◎審査の種類：1年次定期サーベイランス審査

◎指摘事項：3件の改善の余地
(レベルアップのための改善提案)

3年毎に更新審査を受審しています。



改善の余地（審査結果報告書より3件抜粋）

6.1.2環境側面

「著しい環境側面登録表」では亀山事業所と白山工場の総計となっており、事業所別の評価が不足しています。新しいサイト（白山工場）を立ち上げる際には、事前に一連の環境影響評価結果を残しておく点に改善の余地があります。

6.1.3順守義務

プラスチック資源循環促進法が制定され、順守義務が強化されています。「環境関連法規制等登録表」には同法が登録されていますが、要求事項の内容が網羅的で明瞭ではありませんでした。

要求事項の最新化に関し、適時登録しそれに基づく確実な順守に繋げる点に改善の余地があります。

8.2緊急事態への準備及び対応

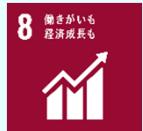
付表3「著しい側面登録表」において一部の毒物(BCl3(三塩化ホウ素)及びPH3(ホスフィン)が特定されていません。緊急事態及び事故を特定するための仕組みに改善の余地があります。

■現場審査





従業員への教育取り組み



事業活動における環境負荷低減活動を実施するためには、従業員一人ひとりの環境意識と知識の向上が必要です。そのために、一般的な環境教育や、薬液や高圧ガスの取り扱いなどの専門教育、様々な緊急事態を想定した訓練を実施しています。

2023年度の主な教育の内容

種類		対象者	主な実施内容
一般教育	環境一般教育	全従業員	環境マネジメントシステム（環境方針、環境目的・目標、環境マニュアル） 環境問題等
	省エネルギー管理	全従業員	居室等の空調設定、照明の消灯等の徹底
	再資源化/廃棄物管理	全従業員	リサイクル/リユースの徹底（廃棄物の分別徹底）
	環境マインド講座	環境システム推進委員	近年の環境問題や身近にできるエコ活動の紹介
専門教育	薬液取扱教育	薬液取扱者	薬液の取り扱い・危険性・緊急時に関する基本教育
	高圧ガス取扱教育	高圧ガス取扱者	高圧ガスの取り扱い・危険性・緊急時に関する基本教育
	内部環境監査員の養成	責任者が必要と認めた者	内部環境監査員の養成・強化
	環境施設の基礎教育	責任者が必要と認めた者	水処理設備・エネルギー供給設備・ガス供給設備等の教育

◆従業員への一般教育

環境方針カードでの周知徹底

全従業員に環境方針カードを配布し、環境方針の周知徹底と部門の環境目標および各自の取り組みを記入することで、環境意識の向上を図っています。

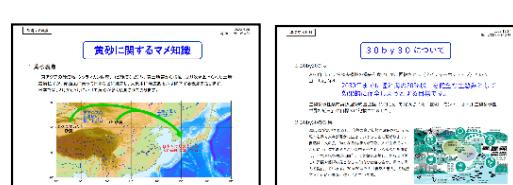


環境方針カード
(両面)

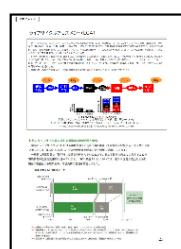
環境マメ知識での教育

環境マメ知識では、近年の環境問題や課題、取り組みなどを取り上げ、環境システム推進委員会で委員に教育を実施しています。

※2か月に1回発行

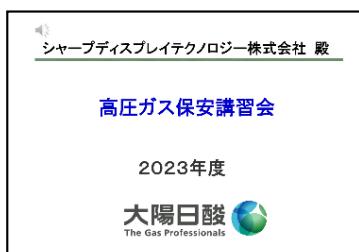


環境マメ知識 (一例)



◆専門教育会の実施

毎年、薬液やガスなどを取り扱う業務従事者を対象に、薬液取扱教育会及び高圧ガス取扱教育会を開催しています。



◎高圧ガス保安講習会

実施期間：2023年12月8日～2024年3月31日
受講者数：351名



◎薬液保安講習会

実施期間：2024年1月12日～2024年4月1日
受講者数：945名



汚染防止のための緊急時訓練



緊急事態対応訓練による汚染防止の取り組み

種類	対象者	主な実施内容
防災訓練(地震+火災)	全従業員	地震やガス漏れにより、火災が発生したことを想定した対応訓練
普通救命講習会	全従業員	急病やケガ人への救命処置の訓練
薬液漏洩対応訓練	薬液取扱者	有害な薬液が工場内で漏れた事故を想定した訓練
ガス漏洩対応訓練	ガス取扱者	有害なガスが工場内で漏れた事故を想定した訓練
停電対応訓練	生産部門 環境部門	震度5以上の地震で停電が発生したことを想定した訓練
放流水質異常対応訓練	環境部門	放流水質が基準値を逸脱したことを想定した放流防止対応訓練

■取引業者様との薬液廃液漏洩対応合同訓練

薬液供給・回収エリアにおいて、薬液回収時に液漏れしたことを想定し、流出を防止する訓練を実施しました。取引業者様と合同で実施することにより、手順及び認識を共有でき、迅速且つ的確に対応がとれるように訓練しています。



漏洩発生連絡（取引業者様）



初期対応



訓練終了後 総括

◆地震、停電時対応訓練

地震及び停電が発生した時、必要な情報を確実に取得し、迅速な対応がとれるように訓練しています。



感震器確認



放送訓練

◆スクラバー排気異常対応訓練

有機・酸スクラバー異常停止が発生した時、未処理ガスの放出による環境への影響を防止するため、訓練しています。



インバーター確認



吐出MD確認

◆雨水水質異常時対応訓練

事業所外へ排水される雨水側溝に水質異常が見られた場合、早急に遮断ゲートの閉止及び異常水を回収する訓練をしています。

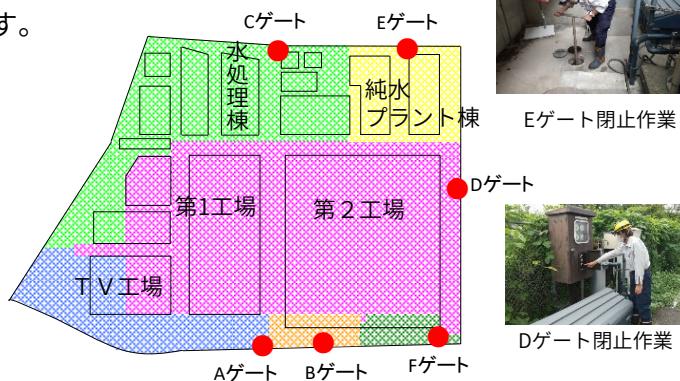


水質確認



ピットへの回収対応

雨水遮断ゲート位置（全6か所）



Eゲート閉止作業

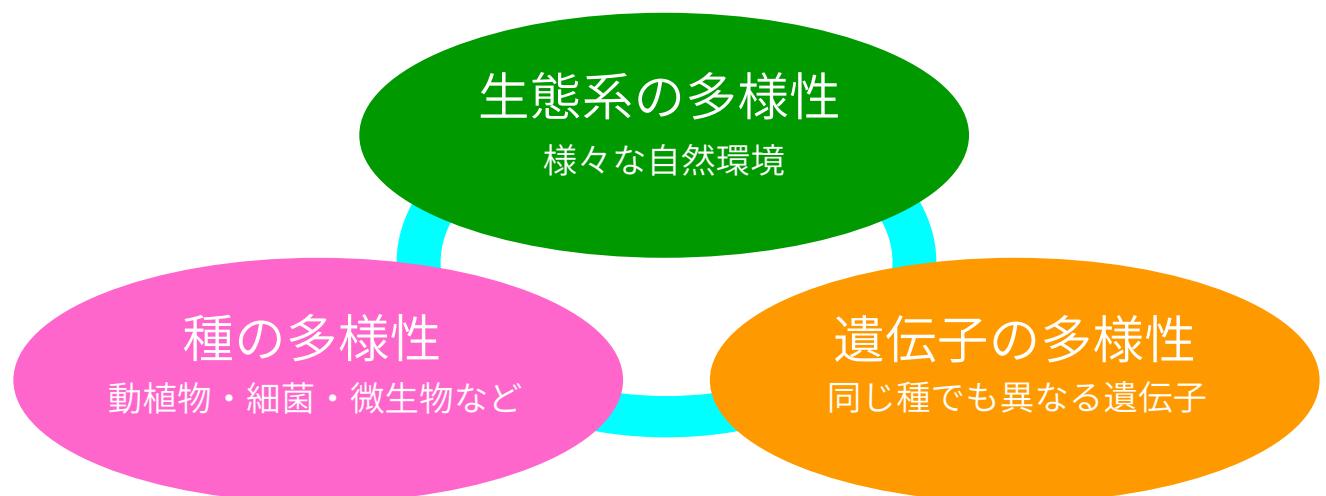


Dゲート閉止作業

2009年度に「シャープグループ生物多様性の保全と持続可能な利用を巡る方針」に基づく取り組み指針として「シャープ生物多様性イニシアチブ」を策定しました。このイニシアチブでは、生物多様性について分かり易く解説するとともに「事業活動を通じた取り組み」と「社会貢献活動での取り組み」の両面から具体的な推進施策をまとめています。その指針のもと生物多様性の保全活動に取り組んでいます。

生物多様性とは？

たくさんの種類の生物が、お互いに影響し合いながら生態系のバランスを維持して、生きていることを生物多様性といいます。この生物多様性により豊かな地球環境が保たれています。近年、地球環境の悪化に伴って生物種の絶滅速度が増しており、生態系への影響が懸念されています。



生態系サービス

多様な生物に支えられた生態系は人類にとっても多大な利益をもたらしており、『生態系サービス』といわれています。

供給サービス

食糧、水、原材料、
遺伝資源、薬用資源



調整サービス

気候調整、水量調整、
水質浄化、疾病制御



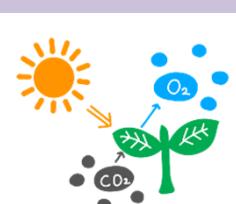
文化的サービス

レクリエーション、
文化、芸術、教育



基盤サービス

光合成、土壤形成、
栄養循環





生物多様性の保全取り組み



シャープグループの生物多様性保全取り組み領域

事業活動

ハイブリッド型 アプローチ

社会貢献活動

バリューチェーン全体の取り組み

調達	環境配慮性を備えた部材の調達など
開発	環境配慮型商品・デバイスの開発など
生産	工場の温室効果ガス・廃棄物排出量の削減など
販売	オフィスの温室効果ガス・廃棄物排出量の削減など
物流	モーダルシフトの推進など

直接的な保全活動
シャープの森づくりやクリーンアップなど

社内のマインド醸成
シャープグリーンクラブ (SGC) ^{※1}活動など

社外への啓発
環境イベント参画や環境教育など

※1 労使共同で運営するボランティア団体

当事業所もさまざまな場面で生物多様性に影響を与え、またその恩恵を受けていることから、事業活動全般を通じて、生物多様性の保全と持続可能な利用に留意する必要があると考えています。

ビオトープの整備

2010年度から事業所敷地内に豊かな生態系を再現する緑地（ビオトープ）の整備を続けており、周辺地域の自然環境に近い緑地を再現することで、多様な動植物が生育できる環境に近づいていると感じています。また、従業員の憩いの場としても活用しています。



整備活動（草刈り）



鳥の巣箱設置



ビオトープ見学会
(毎年10月頃)



地域とのコミュニケーション



地域の方々や全ての利害関係者に環境取り組みをご理解いただくため、地域主催の環境イベントに積極的に参加し、環境活動の紹介や関連情報を交換しております。また、地元を対象とした環境教育や工場見学、子供たちの環境マインド育成を目的とした環境出前授業を実施するなど社会貢献活動や環境学習、地域とのコミュニケーションに努めています。

2023年度の目標	2023年度の実績	評価
環境情報の開示 65件以上	環境情報の開示 76件	
社会貢献活動の実施 28件以上	社会貢献活動の実施 37件	達成

地域の学校への環境出前授業の実施

毎年、亀山市内の中学校(3校)へ出向き、『環境出前授業』を実施しています。授業ではごみの分別やリサイクル、地球温暖化防止などの環境関連の講義のほか、皆さんに楽しく学んでもらえるようリサイクル工場の分別の仕組みを器具を使って実際に体験していただいたり、手回し発電の実験などを取り入れています。出前授業を通じて環境問題に少しでも関心を持つきっかけになればと思います。



中部中学校
(2023年11月9日)



関中学校
(2023年11月13日)



亀山中学校
(2023年11月16日)

積極的に授業に参加してくれたり、真剣に聞き入ってくれたりと、学校や学年、クラスによって授業の雰囲気が違うので、こちらも毎回新鮮な気持ちで取り組むことができます。興味深く楽しそうに話を聞いてくれている姿が毎年印象的です。





環境イベント・地域の清掃活動への参加

積極的に参加し、コミュニケーションを図っています。

『みえ環境フェア』への出展

三重県地域温暖化防止推進センター主催のイベントに三重事業所と合同で社会貢献活動のパネル展示とクリスマスリースづくりで出展しました。

実施日：2023年12月10日(日)



『クリーン作戦』への参加

亀山市地区衛生組織連合会と亀山市主催の美化啓発活動に参加し、市内のごみ拾いや不法投棄禁止を啓発する看板の設置等を行いました。

実施日：2024年4月20日(土)



テープの巻き芯で地球環境保護活動に貢献

各種使用済み粘着テープの巻き芯を事業所内で回収し、『ニチバン巻芯ECOプロジェクト』に寄付しています。回収された巻き芯は段ボールの資源として再利用されるとともに、その利益金を国内の植林活動に充てたり、環境NGO「イカオ・アコ」へ寄付され、フィリピンでのマングローブの植樹やメンテナンス活動に活かされています。



本活動を運営しているニチバン株式会社様より感謝状をいただきました。



コミュニケーションツール

当事業所がどのような環境保全活動を行っているかを地域の方々やステークホルダーに知っていただくため、『環境取り組みのご紹介』を2004年から毎年発行しています。今後も皆様からのご要望を取り入れながら内容の充実を図ってまいります。





環境法規制順守の取り組み

環境法規制の順守は、事業活動をするうえで、企業にとって必要最低限の条件だと考えています。そのため、監査体制を構築し、順守状況を確認しています。また、法改正情報を漏れなく入手し対応することが不可欠であるため、情報確認体制の強化に取り組んでいます。

2023年度の環境法規制順守状況

環境保全協定の
順守状況



全て
自主基準値以下
(詳細は25・26ページを確認下さい。)

改正法令の対応



漏れなく全て対応

お取引先の法令
順守状況



漏れなく全て対応
廃棄物委託業者 (19社)

亀山市との環境保全協定順守のための取り組み

地域の生活環境の保全と豊かな自然環境を守るため、亀山市との間に『環境保全協定』を締結しています。大気・水質・騒音/振動・悪臭※の項目で、法律より厳しい排出基準を順守することを約束しており、それを守るために更に厳しい自主基準値を設定し、対策を行ない環境負荷低減に努めています。

2023年度は全ての項目で自主基準値以下でした。

※大気・水質・騒音/振動・悪臭の排出基準と2023年度の実績はP.25～26で紹介しています。

● 亀山市による立入調査

環境保全協定の取り決めで、各種測定結果を定期的に亀山市に報告していますが、水質の項目について、亀山市の立入調査を受けており、**協定値以下で運用**されていることを確認していただきました。

立入り : 2023年7月13日 (木)

結果 : 自主基準値以下





- 環境方針に基づいた取り組み -

環境法規制順守の取り組み

環境法規制違反を防ぐための取り組み

当事業所では、生産工程等で多量の化学物質を使用しています。工程で使用された化学物質は、産業廃棄物として引き取りされるものと、工程で使用した際の蒸発分を工場屋上に設置している除害装置で浄化しきれいな空気として放出されるものがあります。これらが正常な基準で運用されているか常に監視し、環境汚染予防対策に努めています。

◆河川や大気を汚染しないように常時監視



大気・水質の監視

① モニターによる監視

⇒自主基準値を超えない管理をしています。

② NOxの測定・巡視

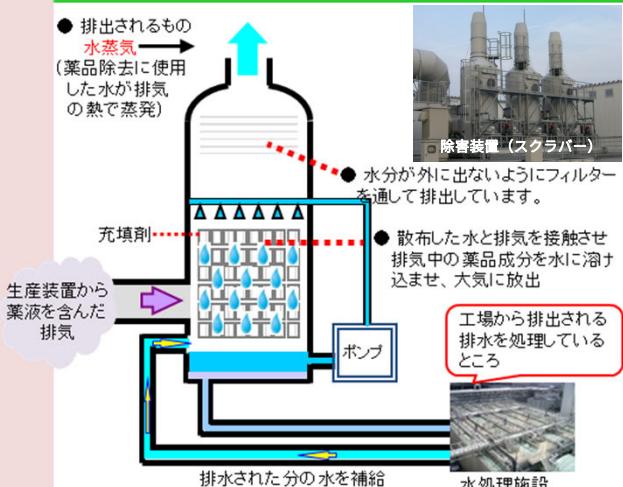
⇒専門業者による測定は年2回実施。
脱硝装置巡視は毎日点検を実施。

③ 放流水の点検

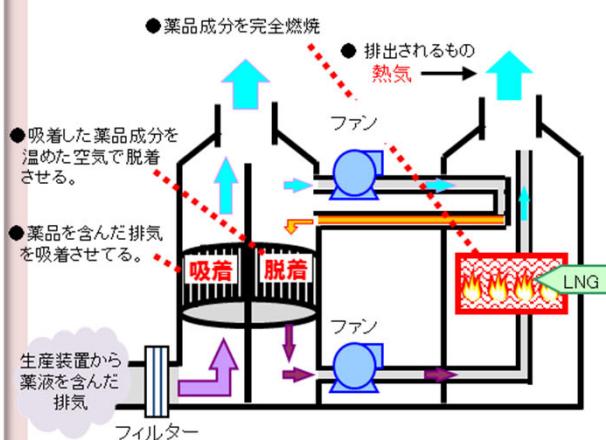
⇒常時監視を行ない、毎月1回放流水の測定結果を亀山市へ報告しています。

◆排ガス処理設備を導入

酸・アルカリの薬品(水溶性)を含んだ排気の処理 (薬品成分を水等に吸着させて除去)



有機溶剤を含んだ排気の処理方法 (薬品成分を燃焼して除去)



お取引先の法令順守状況を確認

お取引先様に対しても、定期的に環境法規制の順守状況を確認しています。産業廃棄物の処理等を委託している業者については、当社の三重事業所と分担して、事業者を訪問し現地確認を実施しています。

廃棄物委託業者の現地確認



2023年度 現地確認

計画：19社



実績：19社

全社問題なし



環境法規制順守データ

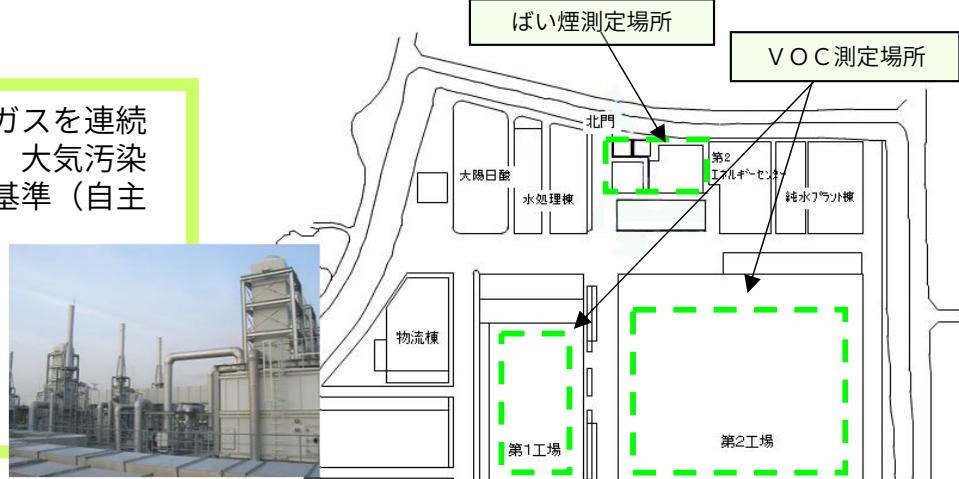
事業活動に伴う公害の未然防止により、周辺住民の健康と福祉の向上のため、生活環境の保全と豊かな自然環境の継続を図ることを目的として、亀山市との間で『環境保全協定』を締結しています。環境保全協定では、法律より厳しい協定値を順守することを求められており、それを達成するために、協定値より更に厳しい自主基準値を定め環境法規制を順守しています。

大気の管理

ガスエンジンやボイラーの排ガスを連続測定器で常時監視しています。大気汚染の法規制値よりも厳しい社内基準（自主管理基準）を設定し、管理しています。

生産工程から排出されるVOC^{*1}等は全て除害装置で処理後に排出しています。

※ 1 挥発性の有機化合物の総称



大気汚染の防止 (1回／6ヶ月測定)

基準値以下

項目	単位	規制値			2023年度実績 (最大値)
		法定値	協定値	自主基準値	
ばいじん (ガス機関)	g/Nm ³	0.1以下	0.05以下	0.04以下	0.03未満
窒素酸化物 NOx (ガス機関)	ppm	600以下	180以下	170以下	81
硫黄酸化物 SOx (ガス機関)	Nm ³ /h	23.5以下	0.11以下	0.09以下	0.062
揮発性有機化合物(VOC)	ppmC	400以下	-	200以下	9

水質汚濁の防止 (1回／1ヶ月測定)

基準値以下

項目	単位	規制値			2023年度実績 (最大値)
		法定値	協定値	自主基準値	
水素イオン濃度(pH)	-	5.8～8.6	5.8～8.6	6.0～8.4	7.4～7.8
生物化学的酸素要求量(BOD)	mg/l	160以下	10以下	8以下	0.5未満
化学的酸素要求量(COD)	mg/l	160以下	10以下	8以下	1.5
浮遊物質量(SS)	mg/l	200以下	10以下	8以下	1.7
N-ヘキサン抽出物質(鉱物油)	mg/l	5以下	1以下	0.8以下	0.5未満
大腸菌群数	個/cm ³	3,000以下	3,000以下	2,400以下	9
全窒素	mg/l	120以下	10以下	8以下	2.60
全リン	mg/l	16以下	1以下	0.8以下	0.029
フッ素及びその化合物	mg/l	8以下	0.8以下	0.64以下	0.44

騒音・振動の管理

測定箇所 : ●

騒音・振動の測定は、工場周辺の敷地境界で決まった時間帯に連続測定を行ないます。
(図はマイクロホン騒音測定器です)

防振装置や防音壁を設置し、常に周辺環境に配慮しています。



騒音・振動の防止 (1回／年測定)

基準値以下

項目	単位	規制値			2023年度実績 (最大値)
		法定値	協定値	自主基準値	
騒音	昼間	dB	70以下	60以下	60以下
	朝	dB	65以下	55以下	55以下
	夕	dB	65以下	55以下	55以下
	夜間	dB	60以下	50以下	50以下
振動	昼間	dB	65以下	65以下	55以下
	夜間	dB	60以下	60以下	50以下

悪臭の防止 (1回／年測定)

基準値以下

項目	単位	規制値			2023年度実績 (最大値)
		法定値	協定値	自主基準値	
アンモニア (敷地境界)	ppm	-	1以下	0.5以下	0.2
メチルメルカプタン (敷地境界)	ppm	-	0.002以下	0.001以下	0.0002未満
硫化メチル (敷地境界)	ppm	-	0.01以下	0.005以下	0.001未満
アンモニア (気体排出施設)	m ³ /h	-	199以下	99.5以下	0.02
メチルメルカプタン (水質)	mg/l	-	0.007以下	0.0035以下	0.0005未満
硫化メチル (水質)	mg/l	-	0.07以下	0.035以下	0.0003未満



亀山市長からのメッセージ

私たちが事業活動を推進することができるのは、亀山市によるご支援と、地域の皆様のご理解があつてのことです。日頃お世話になっております亀山市長からメッセージをいただいておりますので紹介いたします。

持続可能な社会づくりへの貢献

シャープ株式会社は、崇高なる環境基本理念である「誠意と創意をもつて『人と地球にやさしい企業』に徹する」のもと2019年に策定されました長期環境ビジョン「SHARP Eco Vision2050」の実現に向けて、環境経営のグローバルな展開、企業市民としての地域社会への貢献など、実に多面的な企業活動を推進いただき、亀山市として大変心強く感じており、心より敬意と感謝を申し上げます。

とりわけ、市内中学校での環境出前講座の継続的な実施をはじめ、清掃活動への参加やビオトープでの地域の希少淡水魚類の保護など多岐にわたる貴社の環境活動は、地域と市民の環境配慮に対する意識の醸成に大きく寄与しつつあるものと感じております。

一方、世界に目を向けると、国連サミットにおける「持続可能な開発のための2030アジェンダ」の採択やCOP21において採択された「パリ協定」の発効など環境問題に対する国際的な合意のもと、国内外を取り巻く状況は大きく変化しております。昨年4月の「G7札幌 気候・エネルギー・環境大臣会合」では、経済成長とエネルギー安全保障を確保しながら、ネットゼロ、循環経済、ネイチャーポジティブ経済を統合的に推進し、気候変動、生物多様性の損失及び汚染という3つの世界的な危機とエネルギー危機に関する方向性が取り纏められました。

このように、環境を取り巻く状況は大きく変化しており、気候変動などの環境問題は、国際社会において一層の関心が高まっています。企業と行政では立場は異なりますが、循環型社会、脱炭素社会、自然共生社会、持続可能な社会の実現という共通の未来へ向けて、一層の協働のもと、貴社とともに歩みを進めていきたいと存じます。

結びに、シャープ株式会社の益々のご発展を心より祈念申し上げます。



亀山市長
櫻井 義之 様



亀山市のご紹介

亀 山 市

三重県の内陸部に位置する亀山市は、市の面積の半分以上が森林ととても自然豊かなまちながら、名物や名所があるのが特徴です。そんな中から「東海道関宿」をピックアップし、紹介します。



東海道関宿は、東海道五十三次の47番目の宿場町として栄え、江戸時代後期から明治時代にかけて建てられた町家が今も200棟以上現存し、当時の雰囲気が残されています。東西追分の間約1.8kmにもおよぶその古き良き街並みは、旧東海道の宿場町の中で唯一歴史的な町並みを残していることから「国の重要伝統的建造物群保存地区(昭和59年)」や「日本の道百選(昭和61年)」にも選定されています。



事業所マップ

◎ 自然環境に配慮した設備を導入し、24時間体制で運用管理を行っています。

防音壁

騒音対策として、大きな音を出す装置の周りを囲っています。



水処理施設

工場で使用した水から不
100%再利用しています。

ビオトープ

事業所内に作った池や川で、
たくさんの生き物や植物が
生息しています。



排ガス浄化設備

排出ガスから有害な物質を除去し、
きれいにしてから外気に排出しています。

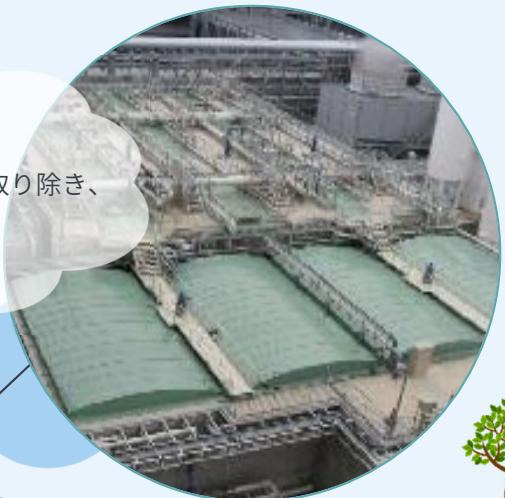


太陽光パネル

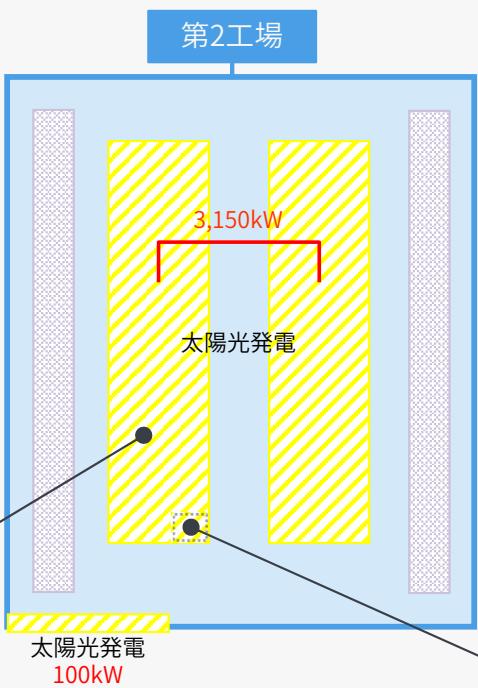
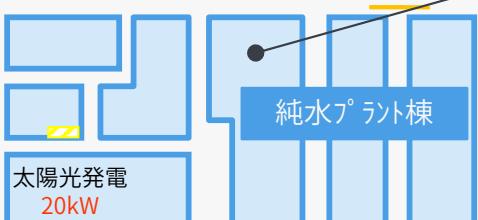
工場の屋上や壁面
自然のエネルギー



不純物を取り除き、
。



コージェネレーションシステム
工場で使用する電気をつくります。
その時に出る排熱も有効活用しています。



フロート型太陽電池
水に浮かべることができる太陽光パネルを
池に浮かべ、発電をしています。

面に設置し、
ーを有効利用しています。

環境見学コーナー

賞の数々や、事業所内で発見した
昆虫や植物の写真を展示しています。





インプット・アウトプット

2023年度の使用量（インプット）と排出量（アウトプット）の結果

環境に影響を与える環境負荷物質の使用量と排出量を把握し、低減に努めています。

		単位	2021年度	2022年度	2023年度	
インプット	エネルギー分類 使用量	購入電力 (自家発電電力除く)	MWh	<u>646,724</u> 一般家庭約21.7万世帯	<u>614,506</u> 一般家庭約20.7万世帯	<u>602,672</u> 一般家庭約20.3万世帯
		自家発電電力量	MWh	<u>203,914</u> 一般家庭約 6.9万世帯	<u>205,862</u> 一般家庭約 6.9万世帯	<u>198,697</u> 一般家庭約 6.7万世帯
		都市ガス	千Nm ³	<u>52,667</u> 一般家庭約 14万世帯	<u>53,433</u> 一般家庭約 14万世帯	<u>50,920</u> 一般家庭約 13万世帯
		蒸 気	GJ	<u>118,800</u>	<u>118,174</u>	<u>91,644</u>
		温 水	GJ	<u>130,323</u>	<u>131,408</u>	<u>126,214</u>
		冷 水	GJ	<u>1,678,109</u>	<u>1,661,367</u>	<u>1,643,297</u>
	新エネルギー	太陽光発電量	MWh	<u>3,729</u> 一般家庭約1,385世帯	<u>4,003</u> 一般家庭約1,346世帯	<u>3,554</u> 一般家庭約1,195世帯
	水資源分類 使用量	上水（市水）	千m ³	<u>26</u> 年間で使う水約260人	<u>26</u> 年間で使う水約260人	<u>31</u> 年間で使う水約320人
		工業用水（工水）	千m ³	<u>1,405</u> 年間で使う水約14,220人	<u>1,234</u> 年間で使う水約12,500人	<u>1,400</u> 年間で使う水約14,200人
	化学物質購入量	トン		<u>23,901</u> ドラム缶 約11.9万本	<u>20,744</u> ドラム缶 約10.4万本	<u>18,323</u> ドラム缶 約9.2万本
アウトプット	CO ₂ 総排出量	t-CO ₂		<u>372,475</u> 一般家庭約7.2万世帯	<u>359,411</u> 一般家庭約6.9万世帯	<u>370,836</u> 一般家庭約7.1万世帯
	廃棄物総排出量	トン		<u>45,310</u> 亀山市の一般家庭約2.3年分	<u>41,459</u> 亀山市の一般家庭約2.1年分	<u>27,359</u> 亀山市の一般家庭約1.4年分
	P R T R 対象物質大気排出量	トン		<u>0.44</u> ドラム缶 2.2本	<u>0.83</u> ドラム缶 4.1本	<u>5.60</u> ドラム缶 28本
	放流水量	千m ³		<u>448</u> 約4,552人分	<u>414</u> 約4,207人分	<u>361</u> 約3,668人分

※電気事業連合会の1世帯あたりの電力消費量推移の2015年度使用量を使用(247.8kwh/月)

※東京ガスの1世帯あたりの都市ガス使用量を使用(32m³/月)

※東京水道局の世帯人員別の1ヵ月あたりの平均使用水量を使用(8.2m³/人)

エネルギーの効率化

コージェネレーションシステム

コージェネレーションシステムは、天然ガス、石油、LPガス等を燃料として、エンジンやタービン、燃料電池等の方式により発電し、その際に生じる廃熱も同時に回収するシステムです。

当事業所では、電気を作る時に使う冷却水や発生する排気ガスなどの熱を、工場の熱源、冷暖房や給湯などに無駄なく利用し、エネルギーの効率化を実現しています。





亀山事業所のあゆみ

2002年	2月	建設計画を発表
	4月	立地協定締結
	9月	起工式
2004年	1月	操業開始
	4月	竣工披露式
	10月	ISO14001認証取得
	12月	第1回日経ものづくり大賞
2005年	6月	第3回日本環境経営大賞（環境経営パール大賞）
	7月	第2工場建設開始
	8月	第1回ものづくり日本大賞（経済産業大臣賞）
2006年	5月	第8回日本水大賞（経済産業大臣賞） 第4回日本コージェネレーションセンター賞（省エネエネルギー奨励賞）
	8月	第2工場稼働
	12月	地球温暖化防止活動環境大臣賞
2008年	5月	かめやま会故（エコ）の森活動開始
2009年	6月	新エネ百選選出
2012年		第1工場小型液晶工場で稼動・第2工場中／小型液晶ラインに併設
	10月	3R推進協議会会長賞
2014年	3月	環境コミュニケーション大賞 奨励賞
2015年	1月	省エネ大賞 経済産業大臣賞（節電賞）
	2月	環境コミュニケーション大賞 優良賞
	12月	みえ環境大賞（環境経営部門）
2016年	2月	環境コミュニケーション大賞 優良賞
2019年	1月	省エネ大賞 省エネルギーセンター会長賞（省エネ事例部門）
2020年	10月	シャープディスプレイテクノロジー株式会社が発足



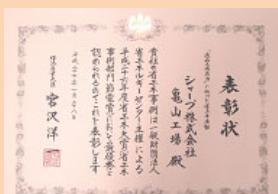
日本環境経営大賞



日本水大賞



地球温暖化防止活動環境大臣賞



省エネ大賞
(経済産業大臣賞)
(省エネルギーセンター会長賞)

編集担当者から一言

このたびは本冊子を手にとってくださりありがとうございます。
私たちは近年深刻化している気候変動やプラスチックゴミなどの
環境問題において、省エネや廃棄物排出量の削減、そして環境法
順守など積極的に環境保全活動に取り組んでいます。

本冊子は、それらの活動とその成果についてまとめております。
私たちの取り組みを紹介することで、地域住民の皆様や行政の方々をはじめとする全ての利害関係者とコミュニケーションを
図るきっかけになればと願います。

これからも社員一丸となって取り組んでまいります。



亀山UTTサービス部 編集担当



省エネ豆知識

省エネ豆知識では、私たち一人ひとりが簡単に取り組める省エネ活動をご紹介します。チェックしてみてくださいね！

エアコン

冷房温度を1°C上げる、暖房温度を1°C下げる
と約10%の電力が低減されます。

適切な温度設定に見直しましょう。

推奨

夏季　冷房温度設定：28°C
冬季　暖房温度設定：20°C



照明・テレビ

使用していない時は消し、付けっぱなしにならないように注意しましょう。

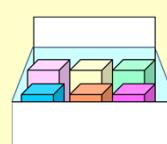


冷蔵庫

冷蔵庫は、隙間を開けて入れましょう。

物を多く入れ過ぎるとファンから出た冷気がうまく冷蔵室全体に回らなくなることがあります。また、熱いものは冷ましてから入れるようにしましょう。

逆に冷凍室は、食品同士が冷やし合うので、隙間なく詰めると省エネになります。



その他、省エネなど環境に配慮した製品に買い替えるのも良い案です



環境用語

地球温暖化(P.6・7)

地球表面の大気や海洋の平均温度が長期的に上昇する現象である。

温室効果ガス(P.4)

赤外線を吸収する能力をもつ気体のこと。地表面からの熱を一旦吸収し、熱の一部を地表面に下向けて放射する。日射に加えて、こうした放射による加熱があるため、地表面より高い温度となり、温室効果がもたらされる。

生物多様性(P.4・17)

地球上に存在する生物の多様さの総称。自然が健全な状態であり続けるためには種の多様性、遺伝子の多様性、生態系の多様性、この3つがどれも保たれていなければならぬ。近年、生物の生態環境が悪化して生態系の破壊が引き起こされている。それにともなって生物種の絶滅が進行している。

環境パフォーマンス(P.15・16)

企業などの組織体が環境に関して配慮した結果、どれだけ環境負荷を削減したかを示す指標。

SDGs（エスディージーズ）(P.5)

Sustainable Development Goals（持続可能な開発目標）の略称で貧困や不平等、不公正の撲滅、気候変動への対応など2030年までに達成すべき17の目標として、2015年9月に国連サミットで採択されました。世界中の企業、政府、地域社会に対し広く協力を求め、人類と地球の繁栄の実現を目指す国際社会共通の行動目標です。

1 貧困をなくそう 	1.貧困をなくそう あらゆる場所のあらゆる形態の貧困を終わらせる
2 飢餓をゼロに 	2.飢餓をゼロに 飢餓を終わらせ、食料安全保障及び栄養改善を実現し、持続可能な農業を促進する
3 すべての人に健康と福祉を 	3.すべての人に健康と福祉を あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を促進する
4 質の高い教育をみんなに 	4.質の高い教育をみんなに すべての人に包摂的かつ公正な質の高い教育を確保し、生涯学習の機会を促進する
5 ジェンダー平等を実現しよう 	5.ジェンダー平等を実現しよう ジェンダー平等を達成し、すべての女性及び女児の能力強化を行う
6 安全な水とトイレを世界中に 	6.安全な水とトイレを世界中に すべての人々の水と衛生の利用可能性と持続可能な管理を確保する
7 こどもーもみんなにそしてクリーンに 	7.エネルギーをみんなにそしてクリーンに すべての人々の、安価かつ信頼できる持続可能な近代的エネルギーへのアクセスを確保する
8 働きがいも経済成長も 	8.働きがいも経済成長も 包摂的かつ持続可能な経済成長及びすべての人々の完全かつ生産的な雇用と働きがいのある人間らしい雇用を促進する
9 産業と技術革新の基盤をつくろう 	9.産業と技術革新の基盤をつくろう 強靭なインフラ構築、包摂的かつ持続可能な産業化の促進及びイノベーションの推進を図る
10 人や国の不平等をなくそう 	10.人や国の不平等をなくそう 各国内及び各国間の不平等を是正する
11 住み続けられるまちづくりを 	11.住み続けられるまちづくりを 包摂的で安全かつ強靭で持続可能な都市及び人間居住を実現する
12 つくる責任 つかう責任 	12.つくる責任 つかう責任 持続可能な生産消費形態を確保する
13 気候変動に具体的な対策を 	13.気候変動に具体的な対策を 気候変動及びその影響を軽減するための緊急対策を講じる
14 海の豊かさを守ろう 	14.海の豊かさを守ろう 持続可能な開発のために海洋と海洋資源を保全し、持続可能な形で利用する
15 陸の豊かさも守ろう 	15.陸の豊かさも守ろう 陸域生態系の保護、回復、持続可能な利用の推進、持続可能な森林の経営、砂漠化への対処、ならびに土地の劣化の阻止・回復及び生物多様性の損失を阻止する
16 平和と公正をすべての人に 	16.平和と公正をすべての人に 持続可能な開発のための平和で包摂的な社会を促進し、すべての人々に司法へのアクセスを提供し、あらゆるレベルにおいて効果的で説明責任のある包摂的な制度を構築する
17 パートナーシップで目標を達成しよう 	17.パートナーシップで目標を達成しよう 持続可能な開発のための実施手段を強化し、グローバル・パートナーシップを活性化する

環境コンプライアンス(P.4)

環境条約や環境制度などの環境に関する社会的取り決めを守ること。コンプライアンスという場合、法令や社会的取り決めの文言のみならず、誠意をもって解釈し、実践することを意味し、法の欠如（法令などの不在）の場合においてもその目的や主旨に沿った方向で行動していくことを意味する。

P R T R（化学物質排出移動量届出制度）(P.11・31)

有害性のある化学物質が、どこから出て、どれくらい環境中に排出されたか、あるいは廃棄物などに含まれて事業所の外にどれくらい運び出されたかというデータを把握、集計し、公表する仕組みのこと。化学物質の発生抑制や管理に大きな役割を果たしている。

I S O 1 4 0 0 1 (P.15)

企業などの活動が環境に及ぼす影響を最小限にとどめることを目的に定められた、環境に関する国際的な標準規格。

SHARP

Be Original.

【発行部門／お問合せ窓口】

〒519-0198
三重県亀山市白木町幸川464番
シャープディスプレイテクノロジー株式会社
人事総務統轄部 亀山UTTサービス部
電話：0595-84-6132 【発行部門直通】